

令和６年度 第１回千葉県移動性向上プロジェクト委員会
議事要旨

□開催日時：令和６年９月４日（水）１３：３０～１５：００

□開催場所：千葉国道事務所 ２０２会議室（WEB併用）

□議事内容：

- （１）これまでの経緯
- （２）今回委員会の審議内容
- （３）渋滞対策の進捗状況確認
- （４）渋滞対策箇所の効果確認・主要渋滞箇所の見直し
- （５）国道３５７号若松交差点における実証実験の報告
- （６）交通需要の調整（TDM施策）の検討
- （７）道路利用者会議等からの渋滞対策要望箇所の検討
- （８）千葉県湾岸地域渋滞ボトルネック検討WG
- （９）今後の渋滞対策の進め方
- （１０）その他

□議事要旨：

- （４）渋滞対策箇所の効果確認・主要渋滞箇所の見直し
 - ・今年度のモニタリング結果により、モニタリングの３指標に該当しなかった「（一）成田小見川鹿島港線（仮称）新田入口交差点」と「国道３５７号舞浜交差点」の２箇所における主要渋滞箇所からの除外について了承された。
 - ・除外済み箇所のフォローアップ（国道２９６号七栄東交差点）について、成田両国バイパスは暫定供用となっているが、全面供用開始までの期間が長くなるようであれば、早く効果が発現するようバイパスに誘導できるような案内をしてもいいのではないかと意見があった。
- （５）国道３５７号若松交差点における実証実験の報告
 - ・昨年度の若松交差点の実証実験は画期的であることから、今年度は浜町２丁目交差点と連動させて、もう一歩進めて頂きたいとの意見があった。
 - ・今年度の対策について、若松交差点と浜町２丁目交差点のサイクル長を統一すると溢流は減少するものの、連動により交通が流れ込みやすくなるのでサイクル長を短くした効果が無くなるのではないかと意見があった。
 - ・意見に対して、少なくとも若松交差点が渋滞の先頭になっている時間帯には、溢流減少により同交差点の交通処理能力が増大すれば、同交差点を先頭として浜町２丁目まで及んでいる渋滞状況は原理的に改善されるとの説明があった。

(6) 交通需要の調整（TDM施策）の検討

- ・ TDM施策では交通需要を踏まえた目標設定が重要であり、八幡交差点の交通需要の時間変動について推定精度をより向上させる必要があるとの意見があった。
- ・ コロナ後の経済の活況に伴い交通需要が増加する一方、運転手不足によるバスの減便等、これまでとは異なる交通状況になっている面が見られるため、TDM施策を検討する際には、それぞれの立場の方が協力可能な全体像を示すことが重要であるとの意見があった。

(7) 道路利用者会議等からの渋滞対策要望箇所の検討

- ・ 国道357号二俣交差点の改良により、交差道路側の青時間短縮が可能になるものの、歩行者に必要な青時間が制約となり短縮が困難になる可能性があることから、歩行者の二段階横断の導入を検討してはどうかとの意見があった。

(10) その他

- ・ アクアラインのETC料金施策は、バスの定時運行にとって渋滞緩和に向けた取り組みとして重要であることは認識しているが、料金施策だけではなく全体的な渋滞対策も検討いただきたいとの意見があった。

以上